

皮膚科

1) 診療科紹介

- 当科は常勤スタッフ 3 名（他に非常勤スタッフ 4 名、主に夜診担当）にて、皮膚科全般の疾患に対し診療にあたっている。
- 一日平均外来患者数は約 80 名、入院患者数は 3-4 名である。地域密着型の当院の特徴のひとつとして、地元の開業医の先生方や、地域の老人施設などからの紹介が多い。
- 疾患としては、アトピー性皮膚炎や蕁麻疹といったアレルギー性疾患、带状疱疹、足白癬といった感染性疾患、糖尿病性皮膚潰瘍や熱傷、といった疾患も多い。褥瘡対策チームを組み院内の褥瘡対策を積極的に進めている。
- 当院は 15 以上の専門科を標榜している関係上、様々な疾患に伴う多彩な皮膚症状を診ることができる。
- 自己免疫疾患や皮膚悪性腫瘍などの症例は京都大学附属病院皮膚科へ紹介させていただいているものもある。
- 関連学会日本皮膚科学会 <http://www.dermatol.or.jp/> ほか

2) GIO

- 皮膚科専門医として、患者中心のチーム医療を実践するために、患者さんの病態の理解を基礎にふまえた上での皮膚科の臨床診断能力、治療の技術を身につける。

3) SBO s

- 患者の人格を尊重し、全人的医療を実施する為、適切なチーム医療、医療連携を図る。
- 一般的な皮膚科疾患について習熟するとともに、悪性腫瘍や難治性疾患などについての病態や治療について学ぶ。
- 皮膚に関する検査に習熟し、実際に施行する。
- 皮膚外科的手技について当科および当院形成外科で研修する。
- 文献検索や学会報告を行うこと及び、学会への参加などにより知識を整理し習得に勤める。

4) Ls

- **On the job training** が主体である。
- 当院は患者数が多い為、皮膚科の一般的な症例に習熟するには最適の環境である。
- 形成外科での研修や、当武田病院グループである城北病院の見学により、高度な手術症例や最新の美容に関する領域も研修可能である。

- さらに難治性疾患等の修得のために、京都大学附属病院皮膚科への出向も可能である。
- 1年次、2年次：
一般的な疾患について、病態や治療について学び、外来および病棟を担当する。創傷処置、熱傷処置、真菌検査、皮膚生検、褥瘡処置、パッチテスト、PUVA療法などを施行する。手術症例について形成外科にて研修する。病理組織所見を理解し修得する。
- 3年次、4年次：
外来および病棟の多くの症例について責任を持って治療にあたる。学会参加により多くの知識を習得する。

5) Ev

- 日々の診療全般につき、指導医より評価される。
- カンファレンス、地方会などの発表を通じて評価を受ける。

6) 大学医局との関連

- 当科は京都大学大学院医学研究科皮膚科学教室の関連施設である。

7) 将来の進路

- 武田病院グループの病院（当院を含む）にてスタッフとして勤務
- 大学院への進学など